

新屋太助「大保恵日記」の中の変星（1830年）と皆既日食（1852年12月11日）

松江星の会 安部裕史（島根県松江市）

安永9年、松江近郊の農村に生まれた太助は14才で新屋に奉公しました。新屋は御用商人として、藩と密接な関係を持つ大商人、城下町の町役も勤める城下屈指の豪商でした。

日記は4冊が残っていて、江戸後期の地方城下町の日常、仕事、行事、主従関係、近所つき合い、士分との関係、夫婦親子関係、食生活、遊行、病気、交通事情、物価、世評、庶民が見る藩主など様々な事象を読み取ることができる興味深い記録です。新屋の菩提寺である信楽寺に所蔵され、松江市の指定文化財となっています。

この日記の中に、星に関する記述が二つ見つかっています。一つは、文政13年（1830年）の京都大地震と変星（彗星）の記述です。そこには、尾を引いた彗星の姿も描いてあります。もう一つは嘉永5年11月1日（1852年12月11日）に松江で見られた皆既日食の記述です。今回は、その内容を紹介します。

なお、この発表にあたり、松江市教育委員会文化財課史料編纂室主任編纂官内田文恵氏、松江市観光振興部松江歴史館主任主事松原祥子氏に指導を仰ぎました。この場をお借りし、お礼申し上げます。

	1冊目	2冊目	3冊目	4冊目
表題	「日記」 (その他文字があるが 解読不能)	「日記大寶得」 (裏に「新屋太助幸」)	「大保恵日記」 新屋 太助	「日記大寶恵」 (表紙には「千種万歳楽」とあり)
記載年月日	文政9年(1826) 9月16日～12月2日	弘化5年(1848) (2月に嘉永に改元) 正月～12月	嘉永4年(1851) 正月～12月	嘉永6年(1853) 正月～12月
	文政12年(1829) 8月10日 ～ 天保3年(1832) 10月23日	嘉永2年(1849) 正月～12月	嘉永5年(1852) 正月～12月	嘉永7年(1854) (11月に安政に改元) 正月～12月
	天保5年(1834) 5月14日、15日、 18日、20日			
備考	文政12年～天保5年分については、後の時代にあらましを記し直したものと考えられる。	毎日の日記	・毎日の日記 ・嘉永4年9月21日に「旧記改」(文政9年から天保4年までの記録を簡条書きにしたもの。)	毎日の日記

1. 文政 13 年（1830 年）の京都大地震と変星（彗星）の記述

まだ、同定できる彗星は見つかっていません。

2. 嘉永 5 年 11 月 1 日（1852 年 12 月 11 日）松江での皆既日食の記述

当日は、松江で皆既日食が見えました。

- ・日食の始まり 11 時 10 分
- ・皆既の中心 12 時 38 分
- ・日食の終わり 14 時 05 分

皆既の時間は「12 時 37 分 27 秒～12 時 39 分 31 秒」と、2 分 4 秒です。

ちなみに松江で皆既日食は次のとおり。

- ・522 年 6 月 10 日
- ・975 年 8 月 10 日
- ・1413 年 2 月 1 日
- ・1742 年 6 月 3 日
- ・1852 年 12 月 11 日
- ・2947 年 6 月 3 日

このように皆既日食を地元で見るとは、とても珍しい現象といえます。